防災教育と関連付けた
家 庭 科 指 導 資 料

小学校
家庭科

「防災頭巾をつくって，
非常時の安全に備えよう」

中学校
技術・家庭科
家庭分野

「小中の裁縫技能を活用
して非常時対策グッズ
を製作しよう」

「家庭用防災袋をつくって
避難路を確認してみよう」

高等学校
家庭科

岩手県立総合教育センター

『防災教育と関連付けた家庭科指導資料』の作成にあたって

岩手県立総合教育センター
研修部科学産業教育担当研修指導主事　川地　里美

県政の重要な課題である復興教育において，防災教育と関連付けた教科指導は重要な役割を担っています。家庭科は実際の家庭や社会生活を学習内容とする教科であり，家庭科の学習指導においても防災教育の期待は高まっていることから，本指導資料を作成しました。

この指導資料では，家庭科の学習における防災教育の要件を二つに整理しました。この要件は学習指導要領に示されている小・高等学校家庭科，中学校技術・家庭科家庭分野のねらいにも即しています。学校や児童生徒の実態に応じた題材を構想する際の参考にしてください。

「いわての復興教育」教育内容における要件と視点 （**「いわての復興教育」プログラム** p. 21）	**防災教育と関連付けた家庭科指導の要件** と題材開発の視点
自らを守り，他者を支えるために身に付けさせたい知識・技能 ・災害による被害を最小化するという視点 ・思いを共有する視点	**家庭科で身に付けた技能（中高は技術）や生活技術を活用して，非常時を想定した備えを工夫・創造できる** ・非常時を想定した備えに対するライフスキルを育てる視点
人としての生き方，自らの在り方を考える態度 ・震災から学んだ教訓を生かすという視点	**家庭科で身に付けた知識や生活体験を通して，生活課題へのよりよい対応の仕方を考え，判断することができる** ・生活課題に対するよりよい対応の仕方を思考・判断・表現させソーシャルスキルを育てる視点

二つの要件に基づいた題材の視点から，小・中・高等学校ごとに，実践的・体験的な学習活動を中心とした題材を開発し紹介しています。各題材は，平成 23～24 年度の家庭に関する各研修講座の演習題材として活用し，研修に参加された教員の状況もふまえ，小・中・高等学校の系統性も視野に入れながら，修正を試みたものです。　　**※【　】は，小中：学習内容・指導事項，高：領域等**

題材の視点 ＼ 校種等	**非常時を想定した備えに対するライフスキルを育てる視点**	**生活課題に対するよりよい対応の仕方を思考・判断・表現させソーシャルスキルを育てる視点**
小学校 **家庭科** ＜学習対象の範囲＞ 家族の一員を自覚し，家族や近隣に協力する	○身じたくずきんをつくって活用方法を考えよう**【A・B・C】** ○ガラスなべでごはんをおいしくたいてみよう**【B】** ○具だくさんの汁ものをつくってみよう**【B】** ○落ちないネックタオルをつくってみよう **【C・D身近な消費生活と環境】**	○家族の団らんを計画しよう －小袱紗つくりとおいしいお茶の入れ方－ **【A家庭生活と家族・B日常の食事と調理の基礎】** ○安全・安心なマイルーム収納を考えよう **【A・C快適な衣服と住まい・D】** ○非常時の家族との連絡方法を確認しよう**【A】** ○ナップザックを防災袋にリフォームしよう 防災袋に何を入れておくか考えよう**【C・D】**
中学校技術・家庭科 **家庭分野** 〈学習対象の範囲＞ 実生活をよりよくする方法を考え，家族や地域で実践する	○安全･安心な地域の食材を使って郷土料理をつくってみよう **【B食生活と自立】** ○家族にマイ箸袋をつくってあげよう**【A・B・C】** ○住まいの安全･安心対策や節電に役立つ小物を工夫しよう **【C衣生活・住生活と自立・D】**	○家族が安全・安心な室内環境を考えよう**【C】** ○大豆やあずきを入れたお手玉をつくって子どもや高齢者とのよりよいかかわり方を工夫しよう **【A・C・D】** ○家族の安全マニュアルを考えよう **【A家族・家庭と子どもの成長・C】** ○生活に困ったときのよりよい対応の仕方を考えよう**【D身近な消費生活と環境】**
高等学校 **共通教科　家庭** **家庭基礎（２単位）** **家庭総合（４単位）** **生活デザイン（〃）** ＜学習対象の範囲＞ 生涯を見通して生活設計を考え（自立），異なる世代との共生（地域・社会）を目指す	○文化祭で郷土料理や地場産品を取り入れたふれあい食堂やバザーを企画しよう**【食･家ク】** ○被服技術検定の技能を活かし，非常時対策グッズを考案･製作して地域の子どもや高齢者にプレゼント（普及）しよう **【衣・ＨＰ・家ク】** ○保育技術検定の技能を活かして，家庭生活で役立つ応急処置を考えよう**【保育・家庭看護】**	○復興メッセージリボンをつくって地域に普及させよう**【衣・学校家庭クラブ活動】** ○日常と非常時の子育て支援や高齢･障がい者支援について考えよう **【家族家庭・保育・福祉・家ク】** ○保育技術検定の技能を活かし，文化祭などでプレイルームを企画しよう**【保育・家ク】** ○安全・安心な○○生活や○○環境について考えよう（食生活・住環境など） **【食･衣･住･消費と環境･ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動】**

題材とページ一覧

東日本大震災津波後，非常時に対する備えの状況はどうでしょうか。教科指導のガイダンスなどで，児童生徒アンケートを行い，結果等をふまえ，本指導資料の題材や指導展開例を参考にしながら学習指導を工夫しましょう。『防災教育に関連付けた家庭科指導資料』の活用が，実際の生活や非常時の備え，そして避難行動の充実・向上につなげる指導に少しでも役立つことを願っています。完成した指導資料は，当センターWeb ページに掲載する予定です。

Ⅰ　小学校　家庭科

1　非常時を想定した備えに対するライフスキルを育てる題材

(1)　身じたくずきんをつくって活用方法を考えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
(2)　透明なべでごはんをおいしくたいてみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
(3)　具だくさんの汁ものをつくってみようー地域の料理「だんご汁」「せんべい汁」ー・・・・6
(4)　落ちないネックタオルをつくってみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

2　生活課題に対するよりよい対応の仕方を思考・判断・表現させソーシャルスキルを育てる題材

(1)　家族の団らんを計画しようー小袱紗（こぶくさ）つくりとおいしいお茶の入れ方ー・・・・・・・・・・11
(2)　安全・安心なマイルーム収納を考えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
(3)　非常時の家族との連絡方法を確認しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
(4)　ナップザックを防災袋にリフォームしようー家庭用防災袋に何を入れておくか考えようー23

Ⅱ　中学校　技術・家庭科　家庭分野

1　非常時を想定した備えに対するライフスキルを育てる題材

(1)　安全・安心な地域の食材を使って郷土料理を作ってみよう・・・・・・・・・・・・・・・27
(2)　家族にマイ箸袋を作ってあげよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

(3)　住まいの安全・安心対策や節電に役立つ小物を工夫しよう

2　生活課題に対するよりよい対応の仕方を思考・判断・表現させソーシャルスキルを育てる題材

(1)　家族が安全・安心な室内環境を考えよう

(2)　大豆やあずきを入れたお手玉をつくって，子どもや高齢者とのよりよいかかわり方を工夫しよう

(3)　家族の安全マニュアルを考えよう

(4)　生活に困ったときのよりよい対応の仕方を考えよう

Ⅲ　高等学校　共通教科家庭科　「家庭基礎」「家庭総合」「生活デザイン」

1　非常時を想定した備えに対するライフスキルを育てる題材

(1)　文化祭で郷土料理や地場産品を取り入れたふれあい食堂やバザーを企画しよう

(2)　被服技術検定の技術を活かし，非常時対策グッズを考案・製作して地域の子どもや高齢者にプレゼント（普及）しよう

(3)　保育技術検定の技能を活かして，家庭生活で役立つ応急処置を考えよう

2　生活課題に対するよりよい対応の仕方を思考・判断・表現させソーシャルスキルを育てる題材

(1)　復興メッセージリボンをつくって地域に普及させよう

(2)　日常と非常時の子育てや高齢・障がい者の支援について考えよう

(3)　保育技術検定の技能を活かし，文化祭などでプレイルームを企画しよう

(4)　安全・安心な○生活や○環境について考えよう（食生活・住環境など）

巻末資料「家庭科／技術・家庭科における安全指導資料」

Ⅰ小学校家庭科１－(1)　題材名：**身じたくずきんをつくって活用方法を考えよう**

【活動のねらい】　身じたくずきんをつくって，家庭の仕事と非常時（ひじょうじ）での活用方法を考える。

□布を必要な寸法に計って切る　□印つけ　□正しいまち針のとめ方
□ミシンの下糸巻き　□ミシンの上糸・下糸のかけ方
□手ぬい針に糸を通す　□玉結び　□なみぬい　□返しぬい　□玉どめ
□ミシンでの直線ぬい（始めと終わりの返しぬい，角のぬい方）
□家庭の仕事を調べ，できることを増やす　□非常時の備えを工夫する

＜材　料＞

・　さらし８８cm（または市販の手ぬぐい１枚）
・　ミシン糸・手ぬい糸

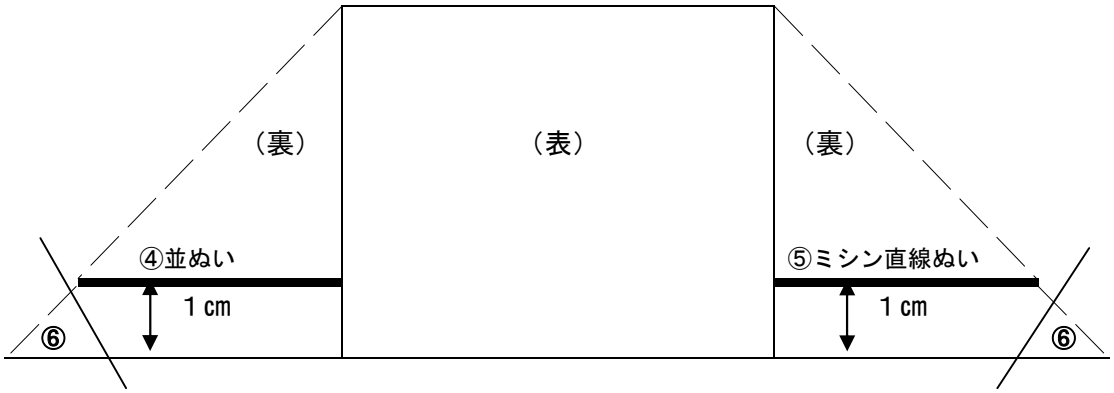
＜用　具＞

ミシン，ボビン，ものさし（竹尺），チャコペン，たちばさみ，
まち針，手ぬい針（短針），糸切りばさみ

＜身じたくずきんのつくり方＞

①　さらしを８８cm長さに計って切る。

②　図のように両わきを三角に折り下げ，チャコペンで，布のみみから１cmのところに印をつける。

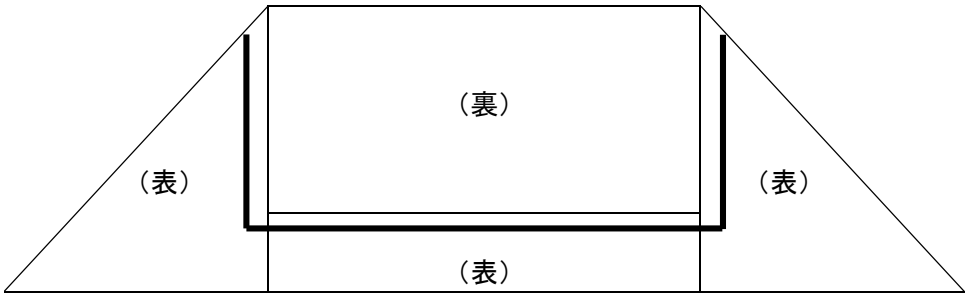


③　②で印を付けたところにまち針をとめる。**【ぬう方向に対して垂直にとめること】**

④　片方は細かい針目のなみぬいでぬう。**【玉結び→ぬい始め一針返し→細かい針目のなみぬい→糸こき→終わりの一針返しぬい→玉どめ】**

⑤　もう片方はミシンの直線ぬいでぬう。【ぬい目のあらさは2，始めと終わりは返しぬい】

⑥　手ぬいとミシンぬいが終わったら，２つの角をミシンのぬい目を切らないように，切り落とす。【上図⑥部分】糸はしの始末をして，表に返す。【下図】



⑦　ミシンの角のぬい方の方法を用いて，上図の太線部分をぬい止める。
【始めと終わりは返しぬい】

【学習シート】（児童一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

身じたくずきんをつくって，活用方法を考えよう

年　組　番（　　）班　氏名

【自己評価基準】　A：良くできた（忘れ物がない、実習内容を正しく理解できた）
B：どちらかというと良くできた（友人に借りて道具を補った、実習内容をほぼ理解できた）
C：どちらかというとできなかった（実習内容があまり理解できなかった）
D：全くできなかった（忘れ物あり、実習内容が全く理解できなかった）

月日	製作計画	自己評価項目	A	B	C	D	実習のふりかえり ・良かったところ ・難しかったところ	先生から
	① 布をたつ ② 印をつける ③ まち針をとめる	長さを正しく計ることができた						
		できあがり線を正しくつけることができた						
		正しくまち針をとめることができた						
		裁縫用具の整理整とん						
	④ 片方をなみぬいでぬう	針に糸を通すことができた						
		玉結びを糸はしにつくることができた						
		できあがり線のとおりに細かい針目でなみぬいができた						
		玉どめをぬい糸の根もとにつくることができた						
	⑤ 片方をミシンで直線ぬい	ミシンの上糸と下糸の準備ができた						
		始めと終わりの返しぬいが正しくできた						
		できあがり線のとおりに直線ぬいができた						
		糸はしの始末ができた						
	⑥ ぬいしろの角を切り落とす 表に返す ⑦ 角のぬい方で仕上げる	ぬい目を切らないように気をつけて，ぬいしろの角を切り落とすことができた						
		ミシンの上糸と下糸の準備ができた						
		始めと終わりの返しぬいが正しくできた						
		ミシンで角のぬい方が正しくできた						

☆活用方法を考えよう

【家庭の仕事】

【非常時】

＜学習のまとめ＞

＜先生から＞

Ⅰ小学校家庭科１－(2)　題材名：透明なべでごはんをおいしくたいてみよう

【活動のねらい】透明なべとガスによる炊飯(すいはん)で，ごはんがたけるまでの原理を知り，炊飯の技能を身に付ける。

□米の洗い方　□炊飯の水量（水加減）　□水にひたす(浸水(しんすい))時間
□加熱の仕方　□蒸らし　□ごはんの天地(てんち)がえ　□非常時(ひじょうじ)の炊飯方法

年　組　番（　）班　氏名

＜材料と分量＞

材　料	１人分（ｇ）	（　）人分	２人分	
			ｇ	概量(がいりょう)
白米	８０ｇ		１６０ｇ	１カップ
水（量）	ml		ml	カップ
☆お米の重量に対する水量を計算しよう				

小学校での学習事項
炊飯の水量計算
米の体積の１．２倍
米の重さの１．５倍

計量スプーンの容量と単位
・大さじ１杯＝15ml
・小さじ１杯＝５ml
計量カップの容量と単位
１カップ＝200ml

＜用　具＞
透明なべ（文化なべ・厚手のなべでも可），計量カップ，しゃもじ，洗米用のボウル・ザル（大）

＜ごはんのたき方＞
(1)　白米を計り，米を洗う。（ひととぎ，みすすぎ）
(2)　白米の分量に対しての水量を用意し，30 分以上吸水させる。
(3)　点火しふっとうするまで強火にする。
(4)　ふっとうしたら中火にする。（ふきこぼれるときには弱火に調節する）
(5)　水が引いて，ふたが動かなくなったら弱火にする。
(6)　火を消し蒸らす。10 分間ふたを開けないでおく。

☆ごはんがたけるまでの状態を観察し，図やことばで記録しよう

ふっとうするまで ⇨ ふっとうしたら ⇨ 水が引いたら ⇨ 消火後

＜学習のまとめ＞	＜先生から＞

Ⅰ小学校家庭科１－(3)　題材名：具だくさんの汁ものをつくってみよう

【活動のねらい】県南地域の料理「だんご汁（みそ仕立て）」をつくり，日常だけでなく，非常時にも栄養バランスのとれる簡単な調理技能を身に付ける。

□野菜　□いも　□洗う　□煮る　□だしじるの取り方
□切り方（たんざく切り，小口切り，いちょう切り）
□米の粉を用いた郷土料理　□栄養バランスを考えた調理の工夫

＜材料と分量＞

材　料	１人分（ｇ）	（　　）人分	４人分	
			ｇ	概量
上新粉	１５		６０	1/2 ｶｯﾌﾟ
白玉粉	１５		６０	1/2 ｶｯﾌﾟ
油あげ	6		２４	1/2 枚
じゃがいも＊ （北上：二子芋） （盛岡:津志田芋）	２０		８０	中２個
大根	２０		８０	1/10 本
にんじん	１０		４０	1/3 本
ねぎ	１０		４０	1/4 本
水	１７０ml		６８０ml	
にぼし	5		２０	約１２ひき
みそ	１５		６０	大さじ３･1/3
しょうゆ				少々
サラダ油				大さじ１

具だくさんの汁ものは，農繁期の昼食に多く食されていました。米の粉を用いた料理を「しとぎ」といいます。農作業の合間に短時間で食べることができるように、野菜は「ひきな（せん切り）」にするそうです。ここでは切り方の学習もあるので，いちょう切りなどにしました。

＊中学校家庭分野では，じゃがいもを里芋（北上：二子芋，盛岡：津志田芋など）に変えたり，肉や鮭などを加えたりして，地域食材を用いた郷土料理の工夫として取り組ませることもできます。

＜だんご汁のつくり方＞

(1)　なべに分量の水を入れ，頭とはらわたを取った煮干しを小さくくだいて，入れておく。
(2)　油あげはたんざく切りにする。ねぎは洗ってから，小口切りにする。
(3)　じゃがいも（里芋：二子芋・津志田芋）・大根・にんじんは皮をむき，（たて４等分に切って）いちょう切りにする。
(4)　にぼしの入ったなべをこんろにかけ，強火で加熱する。
（教科書のみそ汁には，「煮干しは，取り出さずに食べるといいね。」とあるが，だんご汁の場合は，だんごの食感を重視したいので，取り出します。）
(5)　大なべにサラダ油大さじ１を入れ火にかける。油が温まったら，じゃがいも・大根・にんじんを炒め，(4)のだしじるを加える。ふっとうしたら火を弱めて，あくをすくい取る。
(6)　ボウルに上新粉と白玉粉を入れ，少しずつ水を入れながらこねる。耳たぶくらいの固さにして，ひとまとまりにする。一口大のだんご状に丸めて，真ん中をへこませる。
(7)　(5)に，(2)の油あげ，(6)のだんごを加え，火を通す。
(8)　材料が柔らかくなったら，少量のだしじるで，といたみそを入れる。味をみて，しょうゆを加え，最後に小口切りにしたねぎを加える。

	たんざく切り	小口切り	いちょう切り
☆教科書で切り方を調べて，スケッチしてみよう			

Ⅰ小学校家庭科１－(3)　題材名：具だくさんの汁ものをつくってみよう

【活動のねらい】県北地域の料理「せんべい汁」を親子でつくり，日常だけでなく，非常時にも栄養バランスのとれる簡単な調理技能を身に付ける。

□野菜　□洗う　□味をつける　□栄養バランスを考えた調理の工夫
□切り方（ささがき，いちょう切り，たんざく切り，ななめ切り）

＜材料と分量＞

材　料	１人分（ｇ）	４～５人分	
		ｇ	概量
水	３００ｍｌ	１５００ｍｌ	７と1/2ｶｯﾌﾟ
煮干し	５	２５	約１５匹
ごぼう	１０	５０	1/4本
にんじん	２０	１００	2/3～1/2本
糸こんにゃく	２０	１００	
豚バラ肉	３０	１５０	（鶏肉でもよい）
料理酒	少々		適量
キャベツ	２０	１００	約２～３枚（白菜可）
しめじ	１０	５０	1/2パック
せんべい	３枚		１５枚
しょうゆ	１５	７５ｍｌ	大さじ５
みりん	１５	７５ｍｌ	大さじ５
塩	少々		適量
ねぎ	１０	５０	1/3本

塩の手ばかり
塩を２本の指でつまむと小さじ１／５，約１ｇ
塩を３本の指でつまむと小さじ１／３，約１．７ｇ
塩をひとにぎりすると大さじ２，約30ｇ

計量スプーンの容量と単位
・大さじ１杯＝15ml
・小さじ１杯＝５ml
計量カップの容量と単位
１カップ＝200ml

＜せんべい汁のつくり方＞

注意 小学校家庭の実習では，細菌性食中毒などの未然防止のため，生の肉・魚を子どもたちに扱わせないという制限事項があります。肉の調理は保護者が行ってください。

(1)　子ども：頭とはらわたを取った煮干しを，小さくくだいてなべに入れる。
保護者：大きいなべに水１５００ｍｌ（カップ７と1/2杯）を入れ，火にかける。
小なべに２００ｍｌの湯をわかし，糸こんにゃくを湯どおしする。【臭み消し】

(2)　子ども：人参の皮を皮むき器でむいてから，（たて４等分に切って）いちょう切りにする。
保護者：ごぼうの皮を包丁の背でこそげ取って，ささがきにする。

(3)　子ども：ふっとうしたら，火を中火にする。
保護者：水を入れたボウルを用意し，おたまでアクをすくう。【子どもに体験させてもよい】

(4)　子ども：キャベツをよく洗い，４センチ長さに切ってから，２センチ幅のたんざく切りにする。しめじの石づきを切り落とし，よく洗いながらほぐす。
保護者：豚バラ肉を３～４センチ長さに切って，料理酒をふっておく。

(5)　子ども：竹串で，人参に火が通ったかを確認する。せんべいを４等分に割っておく。ねぎを洗い，ななめ切りにする。
保護者：人参に火が通ったら，キャベツ，しめじ，肉を入れる。肉に火が通ったら，しょうゆ，みりん，塩で味を調え，４等分に割ったせんべいとねぎを入れて，５分ほど煮込むとできあがり。どんぶりに盛りつけて，お好みで唐辛子やキムチの素，粉チーズをトッピングしてみましょう。

【参考】『かやきせんを使ったせんべい汁のおいしい作り方』（株）小松製菓

【学習シート】（児童一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

地域の郷土料理の中から，具だくさんの汁ものを作ってみよう

年　　組　　番（　　）班　氏名

郷　土　料　理　名	
材料となる地域の食材	

＜材料と分量＞

材　料	１人分（g）	（　　）人分		備　　考 （先生から）
		g	概量（がいりょう）	

＜調理の工夫と作り方・調理計画＞

①

Ⅰ小学校家庭科１－(4)　題材名：落ちないネックタオルをつくってみよう

【活動のねらい】不要衣料を用いて，暑さ・寒さを防ぐ生活に役立つ物をつくり，暑さ・寒さを防ぐ住まい方の工夫とのかかわりを考える。

□不要衣料の活用　□印つけ　□正しいまち針のとめ方
□ミシンの下糸巻き　□ミシンの上糸・下糸のかけ方
□ミシンでの直線ぬい（始めと終わりの返しぬい）
□快適な着方の工夫　□暑さ・寒さに対処した住まい方の工夫

＜材　料＞

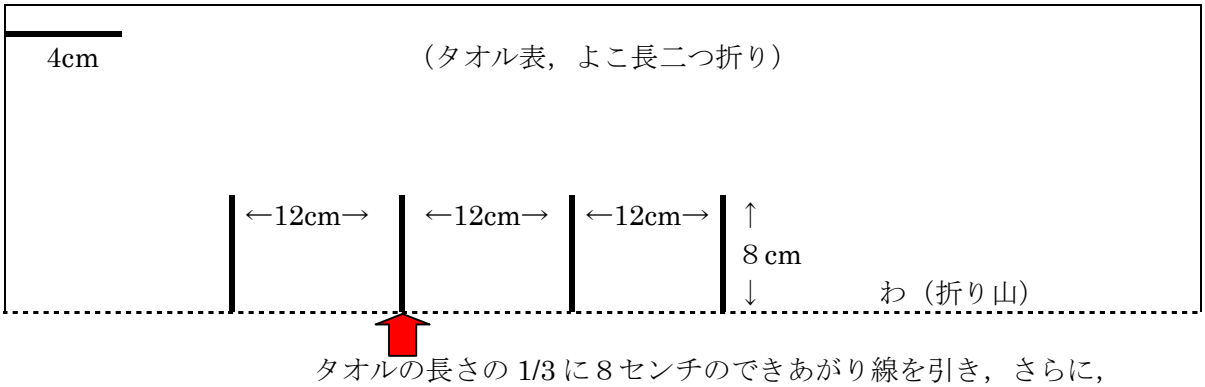
・うす手のタオル
・ミシン糸（手ぬい用糸で，本返しぬいでつくらせてもよい）

＜用　具＞

ミシン，ボビン，ものさし（竹尺），チャコペン，まち針，糸切りばさみ
（手ぬいの場合は，手ぬい針（短針））

＜落ちないネックタオルのつくり方＞

① タオルをよこ長の二つ折りにする。
② 下図のようにチャコペンで印をつける。



タオルの長さの 1/3 に８センチのできあがり線を引き，さらに，左に１本，右に２本 12 センチ間(かん)かくに，できあがり線を引く。
＊保冷剤や使い捨てカイロのミニサイズの長さを計り，たてよこ１㎝のゆとりを加えた長さで，できあがり線を引いてもよい。

③ ②で印を付けたところにまち針をとめる【ぬう方向に対して垂直にとめること】
④ できあがりの印にそって，ミシンでぬう。【始めと終わりは返しぬい】
⑤ 糸はしの始末をする。

【図１】つくり方③④

【図２】完成図

【学習シート】（児童一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

落ちないネックタオルをつくってみよう

年　組　番（　　）班　氏名

【自己評価基準】　A：良くできた（忘れ物がない、実習内容を正しく理解できた）
B：どちらかというと良くできた（友人に借りて道具を補った、実習内容をほぼ理解できた）
C：どちらかというとできなかった（実習内容があまり理解できなかった）
D：全くできなかった（忘れ物あり、実習内容が全く理解できなかった）

月日	製作計画	自己評価項目	A	B	C	D	実習のふりかえり ・良かったところ ・難しかったところ	先生から
	①タオルを二つ折りにする	不要タオルの準備ができた						
		できあがり線を正しくつけることができた						
	②印をつける	正しくまち針をとめることができた						
	③まち針をとめる	裁縫用具の整理整とん						
	④ミシンでぬう（直線ぬい）	ミシンの上糸と下糸の準備ができた						
		始めと終わりの返しぬいが正しくできた						
	⑤糸はしの始末	できあがり線のとおりに直線ぬいができた						
		糸はしの始末ができた						

☆暑さ・寒さを防ぐ工夫を考えよう

ネックタオルに保冷剤を入れて，首に巻いたときの感じ方	ネックタオルに使い捨てカイロを入れて，首に巻いたときの感じ方
【暑さを防ぐ住まい方の工夫】	【寒さを防ぐ住まい方の工夫】

＜学習のまとめ＞	＜先生から＞

Ⅰ小学校家庭科２-(1)　題材名：家族の団らんを計画しよう－小袱紗つくり－

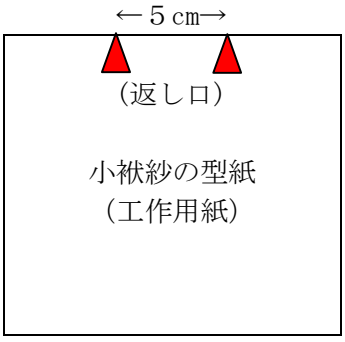
【活動のねらい】家族との団らんを計画し，家族のふれ合いや近隣の人々とのかかわり方を工夫する。日本では，大切なものやいただくものを布にはさんだり，包んだり，掛けたりして大切にしてきた。教科書には，ランチョンマットやコースターが食器の下に敷くものとして紹介されているが，日本の伝統・生活文化の体験を通して，家族の団らんを計画し，さらにお世話になっている近隣の人々へのかかわり方の工夫に発展させよう。

□余り布や木綿衣料の活用　□型紙つくり　□印つけ　□布をたつ
□布地の合わせ方（中表）　□正しいまち針のとめ方
□ミシンの下糸巻き　□ミシンの上糸・下糸のかけ方
□ミシンでの直線ぬい（始めと終わりの返しぬい）
□玉結び　□なみぬい　□かがりぬい　□玉どめ
□家族とのふれあいの工夫　□近隣の人々へのかかわり方の工夫

＜材　料＞
- 工作用紙
- 綿 100％の布（普通地）：たて 17cm×よこ 32cm を１枚（ぬいしろ１cm を含む）
- ミシン糸（手ぬい用糸で，なみぬいでつくらせてもよい）

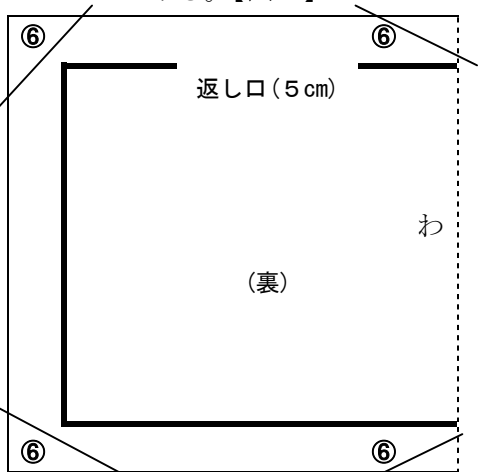
＜用　具＞
紙用はさみ
ミシン，ボビン，ものさし（竹尺），チャコペン，まち針，ぬい針(長針)，糸切りばさみ
（手ぬいの場合は，ぬい針（短針））

＜小袱紗（古服紗・古帛紗）のつくり方＞



【図１】①型紙つくり

①　工作用紙をたて 15cm×よこ 15cm に切り，型紙をつくる。１辺に５cm の返し口の印をつける。【図１】
②　たて 17cm×よこ 32cm に布をたつ。
③　②の布を中表半分に折り，工作用紙でつくった型紙を用いて，できあがり線と返し口の印をチャコペンでつける。【図２】
④　返し口，角の順に，まち針をとめる。（しつけをかける）
⑤　印のとおりにミシンでぬう。【始めと終わりは返しぬい】
⑥　４つの角をミシンのぬい目を切らないように，切り落とし，返し口から表に返す。【図２】
⑦　まち針で角を整え，必要な場合はアイロンをかける。
⑧　返し口を手ぬいでかがるか，ミシンで周りにステッチをかける。【完成】



【図２】③印つけ，⑥角の切り落とし

日本の布模様には，人々の願いや意味が込められています。例えば，麻の葉模様はすくすくと真っ直ぐに成長する特徴をもっているだけでなく，とても丈夫であるために「子どもが丈夫に育つように」という親の願いが込められています。ふくろうは知恵袋で学問の神様とされ，不苦労とも書き，苦労知らずともたとえられます。長寿な鳥で，不老長寿で長生きできると喜ばれたり，福籠とも書き，福が籠るとされ，縁起の良い鳥とされている。家族やお世話になっている人々への思いを模様に込めたり，思い出のある木綿衣料を再利用して，小袱紗をつくりましょう。

布合わせの楽しさを味わわせる場合は，１７センチ四方の布を２枚用意して，中表にしてぬい合わせてつくることもできます。

【学習シート】（児童一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

家族の団らんを計画しよう－小袱紗（古服紗・古帛紗）つくり－

年　　組　　番（　　）班　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

【自己評価基準】　A：良くできた（忘れ物がない、実習内容を正しく理解できた）
B：どちらかというと良くできた（友人に借りて道具を補った、実習内容をほぼ理解できた）
C：どちらかというとできなかった（実習内容があまり理解できなかった）
D：全くできなかった（忘れ物あり、実習内容が全く理解できなかった）

☆家族や近隣の人々の中から，小袱紗をつくって贈る人を決めよう。

私は＿＿＿＿＿＿＿＿に，小袱紗をつくって贈りたいです。

理由は，＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。

☆お世話になっていることへの感謝の気持ちや小袱紗をつくって贈る人への思いと合う布地の模様を考えましょう。贈る人との間に思い出がある木綿衣料を再利用して，つくってもいいです。

私は小袱紗の布地を＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿にしました。

理由は，＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。

月日	製作計画	自己評価項目	A	B	C	D	実習のふりかえり ・良かったところ ・難しかったところ	先生から
	布を選ぶ ①型紙をつくる	家族や近隣の人々にお世話になっていることに気付く						
		贈る人への思いを考え，布選びを工夫することができた						
		型紙をたて 15 ㎝×よこ 15 ㎝に，正しく切ることができた						
		型紙に返し口の印を正しくつけることができた						
	②布をたつ ③印をつける ④まち針をとめる（しつけをかける）	むだなく布をたつことができた						
		型紙を使って，できあがり線を正しくつけることができた						
		正しくまち針をとめることができた						
		裁縫用具の整理整とん						
	⑤ミシンでぬう ⑥ぬいしろの角を切り落とす ⑦角をととのえる ⑧返し口の始末	ミシンの上糸と下糸の準備ができた						
		始めと終わりの返しぬいが正しくできた						
		できあがり線のとおりに直線ぬいができた						
		ぬい目を切らないように気をつけて，ぬいしろの角を切り落とすことができた						
		角をととのえ，返し口がきれいに始末できた						

Ⅰ小学校家庭科２-(1)　題材名：家族の団らんを計画しようーおいしいお茶の入れ方

【活動のねらい】家族との団らんを計画し，家族のふれ合いや近隣の人々とのかかわり方を工夫する。
日本茶のおいしい入れ方の実習を通して，家族や近隣の人々への思いを込めて
つくった小袱紗の活用方法を考え，贈り方を工夫する。

□清潔な身じたく　□家庭科室（調理室）の安全な使い方
□計量のしかた　□ガスこんろ（ＩＨクッキングヒーター）の安全な使い方
□ふっとうの様子　□おいしいお茶の入れ方　□後片付け
□家族とのふれあいの工夫　□近隣の人々へのかかわり方の工夫
□茶がらの有効活用

＜材料と分量（１人分のめやす）＞

・せん茶・・・２ｇ（小さじ１）【茶さじ１はいは，約３ｇで２人分】
・お湯・・・・100ml（適量）【ふっとうした湯を少しさましてから用いる】

＜用　具＞

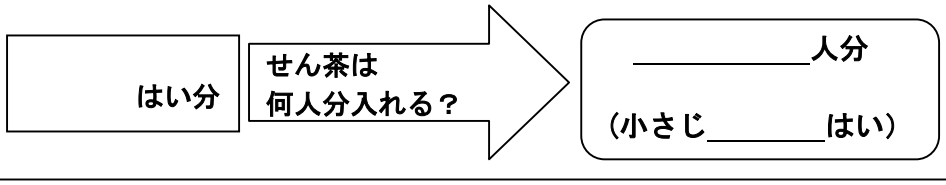
計量カップ，計量スプーン（小さじ）または茶さじ，やかん，きゅうす，湯のみ茶わん，茶たくおぼん

＜おいしいお茶の入れ方＞

①　人数分の水を入れたやかんをこんろにかけ，点火する。（蒸発分の水を入れてもよい。）
②　湯のみ茶わんの８分目くらいに水を入れ，きゅうすに何はい入るか確認して，せん茶の量を決める。

☆　きゅうすに，湯のみの水が３はい分しか入らないとき，
　　きゅうすに，せん茶は何人分入れたらいいか考えてみましょう。

☆☆自分たちの班のきゅうすには，湯のみで何はい分，水が入りましたか。



③　ふっとうをたしかめ，火を消す。
④　湯のみ茶わんを温めるために７分ほどにお湯を注ぎ，同じくきゅうすを温めるために適量のお湯を注ぎ，ふたをする。
⑤　茶わんときゅうすが温まったら，中の湯を捨てる。【捨てる湯でやけどをしないように注意】
⑥　②で確認したお茶の葉の量を，小さじ（または茶さじ）で計り，きゅうすに入れる。
少しさました湯を，きゅうすに入れて，すぐふたをする。
⑦　お茶の葉の，うまみと香りが，お湯の中にとけだしてくるのを，１分くらい待つ。
⑧　人数分の湯のみ茶わんに注ぐ。分量やこさが同じになるように，少しずつ注ぐ。２はい目も，おいしく飲めるように，きゅうすのお茶は残さず注ぐ。きゅうすが小さい場合は，⑦～⑧をくり返す。
⑨　おぼんに茶わんと茶たくをのせて運ぶ。茶たくに茶わんをのせ，お茶を出す。左手のひらに小袱紗を二つに折りにし，その上に茶わんをのせて，相手にお茶を差し出してもよい。
⑩　家族や近隣の方々への思いを込めてつくった小袱紗の活用方法と，贈り方を工夫する。

【参考文献】小笠原清信(1994)，『完全図解くらしのマナー全書』，東陽出版株式会社
広田千悦子(2008)，『おうちで楽しむにほんのもてなし』，技術評論社

【学習シート】（児童一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

おいしいお茶に合うおやつを用意して，お茶会を計画しよう

年　組　番（　）班　氏名

おやつ名				
お茶の種類（しゅるい）				
＜材料と分量＞				
材　料	１人分（g）	（　）人分		備　考（先生から）
		g	概量（がいりょう）	
お茶(　)	２			
＜おやつの工夫と作り方・調理計画＞ ①				

Ｉ小学校家庭科２－(2)　題材名：**安全・安心なマイルーム収納を考えよう**

【活動のねらい】　住まいの暮らし方に関心をもって，自分の身の回りの物の整理・整とんの仕方が分かり，安全・安心なマイルームの収納を工夫する。突然の大きな揺れにおそわれたときには，とにかく自分の身を守ることが先決。第１次の避難行動として，棚や棚にのせてある物，家電製品などが落ちてくる可能性もあるので，落下物から頭を守り，揺れが収まるのを待つことが大切である。日常から身の回りの物の整理・整とんを心がけることが，非常時の避難行動に役立つことを知り，実生活で実せんする。

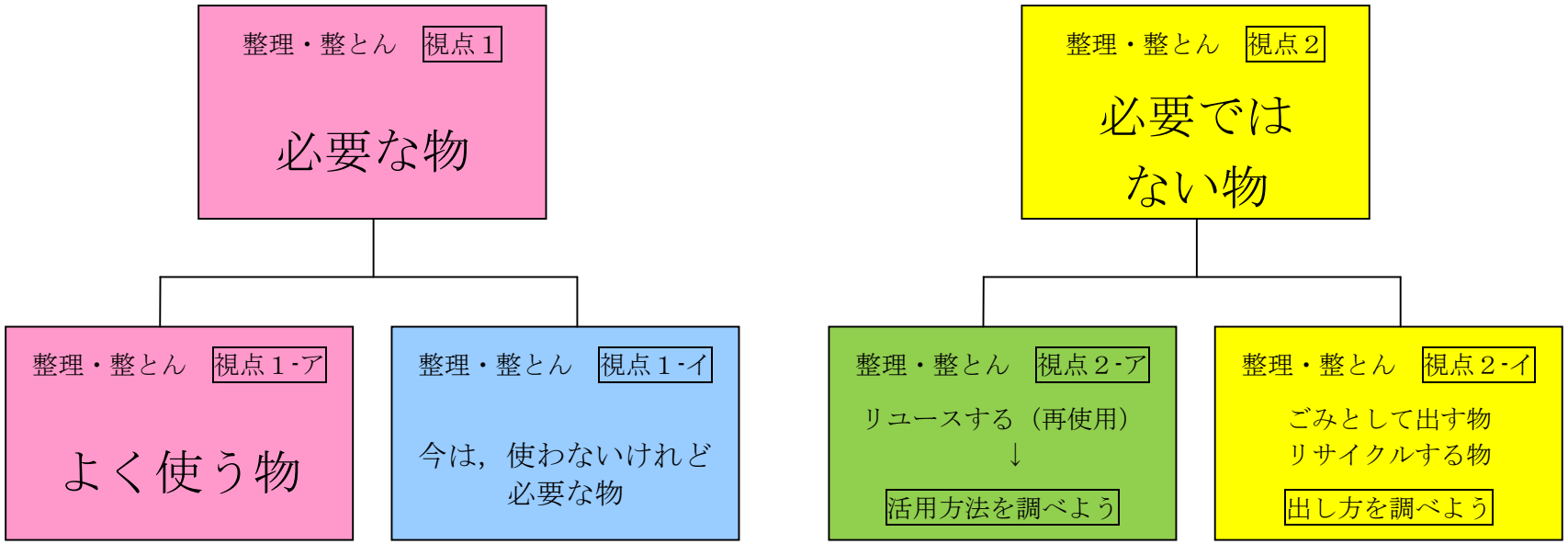
□住まいの暮らし方に関心をもつ　□家庭の仕事　□整理・整とんの仕方　□収納方法の工夫
□安全・安心な生活を考える　□地震のときに身を守るための机下の整理　□頭上からの落下物を防ぐ収納の工夫
□環境を考えた生活の工夫　□物の使い方の工夫（不要品の活用，ごみの減量や分別，リサイクル・リユースなど）

＜教　具＞

整理・整とんの思考カード

＜教具のつくり方＞

児童の思考を広げたり，意志決定させたりする視点をＡ４用紙に印刷し，ラミネート加工して，裏側にマグネットシートを貼る。



【学習シート】（児童一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

安全・安心なマイルーム収納を考えよう

年　組　番（　）班　氏名

＜身の回りの物の整理・整とん＞

①「整理」は捨てること

☆必要な物と必要ではない物を分けて，必要ではない物を捨てよう。

②「整とん」は物の置き方

☆必要な物のうち，よく使う物を，使いやすいように置き場所を決めよう。

今は使わないけれど必要な物は，収納場所を決めよう。

<table>
<tr><td colspan="2">☆学習机(学習用品，本・雑誌など)を調べよう
自分の学習机の様子を図やことばで記入しよう</td><td>☆地震のときに身を守るための学習机の
整理・整とんについて考えよう</td></tr>
<tr><td colspan="2">☆上段の棚(たな)☆</td><td rowspan="4">① 頭上からの落下物を防ぐ収納の工夫を考えよう</td></tr>
<tr><td colspan="2">☆中段の棚☆</td></tr>
<tr><td colspan="2">下段の棚</td></tr>
<tr><td colspan="2">机の上</td></tr>
<tr><td>引き出し</td><td>引き出し</td><td rowspan="4">② 地震のときに身を守るために，学習机の下の整理を考えよう</td></tr>
<tr><td rowspan="3">☆机の下☆</td><td>引き出し</td></tr>
<tr><td rowspan="2">引き出し</td></tr>
<tr><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>☆家庭での実せんの様子をお家の方に記入してもらいましょう</td><td>＜先生から＞</td></tr>
<tr><td></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td></td></tr>
</table>

Ⅰ小学校家庭科２－(3)（中高可）　題材名：**非常時の家族との連絡方法を確認しよう**

【活動のねらい】　災害が発生したときに自分の身を守るための避難行動について，家族と話し合う。

□家庭での防災会議（一人ひとりの役割,避難場所と避難路,連絡方法など）
□家族との連絡方法の確認（家庭との連携による実践）
□自宅（学校・予想される遊び場など）からの避難路の確認
□地域で発生しやすい災害を予測する　　□火災による二次災害を防ぐ方法

【学習シート】（児童生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

非常時の家族との連絡方法を確認しよう

年　　組　　番（　　）班　氏名

☆東日本大震災津波に起きた「困ったこと」を思い出して，書いてみよう。

●連絡がつかない

対　策

「非常時の連絡手段」を決めておきましょう。災害用伝言サービス以外にも，手書きの伝言メモを残す場所を決める，なども有効です。

●公共の交通機関がストップ

対　策

震災後の混乱時に暗くなってからの徒歩帰宅は逆に危険になる可能性もあります。体力や準備が不十分な場合は，安全な場所に避難し明るくなるまで待機（たいき）しましょう。

☆いざというときでも落ち着いた行動を

【地震発生時の行動心得５か条】

①大きな揺れを感じたら身を守る
②落ち着いて火の始末をする
③あわてて外に飛び出さない
④戸を開けて出口の確保をする
⑤正しい情報で行動する
↑
報道機関や市区町村，消防・警察からの情報に注意する

【津波】
海岸・河川敷周辺にいて，強い地震や長い時間（１分以上の揺れ）を感じたらすぐ避難する。できるだけ山側へ，より高い所（鉄骨及び鉄筋コンクリートの堅牢（けんろう）な建物）へすぐに避難する。
（堅牢の意味：堅くてじょうぶなこと）

【台風などの風水害】
避難勧告（かんこく）が出たり，危ないと感じたときは，近隣所の人と連絡を取り合い早めに避難する。

【参考文献】セコム株式会社「子を持つ親の安全委員会」監修(2012),
『わが子を守る家族の安全マニュアル』，株式会社ケーズ・パブリッシング
【参考 Web ページ】総務省ホームページ＞消防庁＞防災マニュアルー震災対策啓発資料ー
http://www.fdma.go.jp/bousai manual/index.html

【学習シート】（児童生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

非常時の家族との連絡方法を確認しようー家庭での防災会議を開こうー

年　組　番（　）班　氏名

☆家族ごとの生活行動を確認して，予想される居場所から最も安全・安心な避難場所を確認し，手書きの伝言メモを用意して，残す場所も決めよう。

私【学校から避難するときの伝言メモ】	私【自宅から避難するときの伝言メモ】	私【　　から避難するときの伝言メモ】
住所	住所	住所
ふりがな 氏名	ふりがな 氏名	ふりがな 氏名
生年月日　　年　　月　　日	生年月日　　年　　月　　日	生年月日　　年　　月　　日
性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型	性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型	性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型
学校名	学校名	学校名
緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）	緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）	緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）
避難場所	避難場所	避難場所

【ワークシート】（家庭での防災会議用）

非常時の家族との連絡方法を確認しようー家庭での防災会議を開こうー

年　組　番（　）班　氏名

☆家族ごとの生活行動を確認して，予想される居場所から最も安全・安心な避難場所を確認し，手書きの伝言メモを用意して，残す場所も決めよう。

父【職場から避難するときの伝言メモ】	父【自宅から避難するときの伝言メモ】	父【　　から避難するときの伝言メモ】
住所	住所	住所
ふりがな 氏名	ふりがな 氏名	ふりがな 氏名
生年月日　　年　　月　　日	生年月日　　年　　月　　日	生年月日　　年　　月　　日
性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型	性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型	性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型
勤務先	勤務先	勤務先
緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）	緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）	緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）
避難場所	避難場所	避難場所

【ワークシート】（家庭での防災会議用）

非常時の家族との連絡方法を確認しようー家庭での防災会議を開こうー

年　　組　　番（　　）班　氏名

☆家族ごとの生活行動を確認して，予想される居場所から最も安全・安心な避難場所を確認し，手書きの伝言メモを用意して，残す場所も決めよう。

母【職場から避難するときの伝言メモ】	母【自宅から避難するときの伝言メモ】	母【　　から避難するときの伝言メモ】
住所	住所	住所
ふりがな 氏名	ふりがな 氏名	ふりがな 氏名
生年月日　　年　　月　　日	生年月日　　年　　月　　日	生年月日　　年　　月　　日
性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型	性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型	性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型
勤務先	勤務先	勤務先
緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）	緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）	緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）
避難場所	避難場所	避難場所

【ワークシート】（家庭での防災会議用）

非常時の家族との連絡方法を確認しようー家庭での防災会議を開こうー

年　　組　　番（　　）班　氏名

☆家族ごとの生活行動を確認して，予想される居場所から最も安全・安心な避難場所を確認し，手書きの伝言メモを用意して，残す場所も決めよう。

【学校から避難するときの伝言メモ】	【自宅から避難するときの伝言メモ】	【　　から避難するときの伝言メモ】
住所	住所	住所
ふりがな 氏名	ふりがな 氏名	ふりがな 氏名
生年月日　　年　　月　　日	生年月日　　年　　月　　日	生年月日　　年　　月　　日
性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型	性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型	性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型
学校名	学校名	学校名
緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）	緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）	緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）
避難場所	避難場所	避難場所

【ワークシート】（家庭での防災会議用）

非常時の家族との連絡方法を確認しようー家庭での防災会議を開こうー

年　　組　　番（　　）班　氏名

☆家族ごとの生活行動を確認して，予想される居場所から最も安全・安心な避難場所を確認し，手書きの伝言メモを用意して，残す場所も決めよう。

【職場から避難するときの伝言メモ】	【自宅から避難するときの伝言メモ】	【　　から避難するときの伝言メモ】
住所	住所	住所
ふりがな 氏名	ふりがな 氏名	ふりがな 氏名
生年月日　　年　　月　　日	生年月日　　年　　月　　日	生年月日　　年　　月　　日
性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型	性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型	性別　男・女　血液型 Rh＋・－　　型
勤務先	勤務先	勤務先
緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）	緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）	緊急時連絡先（親戚（しんせき），知人（ちじん）など） （ふりがな 氏名） （電話） （ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ）
避難場所	避難場所	避難場所

Ⅰ小学校家庭科２−(4)　題材名：ナップザックを防災袋にリフォームしよう
ー家庭用防災袋に何を入れておくか考えようー

【活動のねらい】布を用いた身の回りの生活に役立つ物として製作したナップザックや，家庭で使わなくなった袋ものを，防災袋にリフォームし，非常時の避難生活に必要な備蓄品や持ち出すべきものを考える。さらに，製作した家庭用防災袋に備蓄品を入れて，実際の避難路を歩いて確かめ，我が家の非常時の備えを見直す。

□物の使い方の工夫（不要品の活用）　□布地の有効な使い方
□玉結び　□返しぬい　□玉どめ　□アイロンの使い方と安全な取り扱い
□自宅（学校・予想される遊び場など）からの避難路の確認
□地域で発生しやすい災害を予測する　□安全・安心な生活を考える

＜材　料＞
- ナップザックまたは，家庭で使わなくなった袋もの
- プリントできる布＜縫い付けタイプ＞Ａ４サイズコットン綿 100%（河口株式会社）
  またはアイロン転写紙（※）と綿 100%白生地（綿ブロード）２１cm×３０cm
- しつけ糸，手ぬい糸，ミシン糸

＜用　具＞
家庭用インクジェットプリンター，紙用はさみ，
ものさし（竹尺），チャコペン，たちばさみ，
まち針，ミシン，手ぬい針（長針），糸切りばさみ

＜避難路確認に必要な教材＞
- １．５リットル入りのペットボトル２本
- バスタオル１枚，タオル２枚など衣料品

＜家庭用防災袋のつくり方＞
① プリントできる布に防災袋の表示を印刷する。
　※アイロン転写紙の場合は，白生地を防災袋の表示をナップザック本体にぬいつけてから，
　　プリントアウトしたシートをアイロンで転写する。
② 防災袋の表示の上部を三つ折りして，ミシンでぬう。
③ 防災袋の表示がポケットになるように，両端→底の順番に二つ折りにして，ナップザックにまち針でとめる。（必要に応じてしつけをかける）
④ 防災袋の表示の両端と底を，ナップザックに本返しぬいでぬいとめる。

☆　防災袋に，人間が一日に必要な水量のめやす３リットルと衣料品を入れて，
　自宅から避難所までの避難路を歩いてみよう。
☆　避難所の備蓄品を調べ，家庭用防災袋には何を入れておくか考えよう。

【防災袋表示原稿】プリントできる布，またはアイロン転写紙に印刷して使用します。

家 庭 用 防 災 袋

住　所	
氏　名	
緊急時 連絡先	
避難場所	

家 庭 用 防 災 袋

住　所	
氏　名	
緊急時 連絡先	
避難場所	

【学習シート】（児童生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

家庭用防災袋に備蓄品を入れて，実際の避難路を歩いてたしかめよう

年　　組　　番（　　）班　氏名

☆　家庭での防災会議の結果をまとめよう

①　災害時に避難するとき	避　難　場　所	☆「手書き伝言メモ」を残す場所
私【　学　校　から避難するとき】		
私【　自　宅　から避難するとき】		
私【　　から避難するとき】		

②　家庭での防災会議で話し合ったことをまとめよう。

☆　リフォームした家庭用防災袋に，水３リットルと衣料品などを入れて，自宅から避難場所までの避難路を歩いてみた結果をまとめよう。

＜先生から＞

【学習シート】（児童生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

家庭用防災袋に何を入れておくか考えよう

年　　組　　番（　　）班　氏名

☆　避難所の備蓄品を調べ，家庭用の防災袋には何を入れておくか考えよう。
　非常持出品の重さは，成人男性で１５kg，女性で１０kg が目安である。自分が背負える（無理なく避難できる）重さを確認して，家庭用防災袋に入れておく物を整理しよう。
☆　家庭用防災袋の置き場所も，家庭での防災会議で決めておこう。

消防庁防災マニュアルの例				家庭用防災袋に用意する物
常時携行品（じょうじけいこうひん）※		懐中電灯 携帯ラジオ 笛・ホイッスル 避難カード【避難伝言メモ】 避難用マップ		※ いつも持ち歩くバックなどに入れておく

消防庁防災マニュアルの例			避難所に備蓄されている物	自分			
非常用持ち出し品	貴重品類	現金１０円					
		預金通帳					
		印鑑					
		保険証					
		免許証					
	避難用具	懐中電灯					
		携帯ラジオ					
		予備の乾電池					
		ヘルメット・防災ずきん					
	生活用品	厚手の手袋					
		毛布					
		缶切り					
		ライター・マッチ					
		ナイフ・はさみ					
		携帯用トイレ					
	救急用具	救急箱					
		処方箋の控え					
		胃腸薬・便秘薬・持病の薬					
		生理用品					
	非常食品	乾パン					
		缶詰					
		栄養補助食品					
		あめ・チョコレート・ナッツ類					
		飲料水（煮沸したもの）					
	衣料品	下着・靴下					
		長袖・長ズボン					
		タオル・バスタオル					
		防寒用ジャケット・雨具					
	その他	携帯用カイロ					

【参考 Web ページ】総務省ホームページ＞消防庁＞防災マニュアルー震災対策啓発資料ー
http://www.fdma.go.jp/bousai manual/index.html

Ⅱ中学校家庭分野１－(1)題材名：安全・安心な食材を使って郷土料理を作ってみよう

【活動のねらい】　**地域の食文化調べや郷土料理の調理計画の話し合いなどの活動を通して，安全・安心な食生活について考える。さらに，地域の食材を生かした伝統的な郷土料理をつくり，日常だけでなく，非常時にも栄養バランスのとれる基礎的な調理技能を身に付ける。**

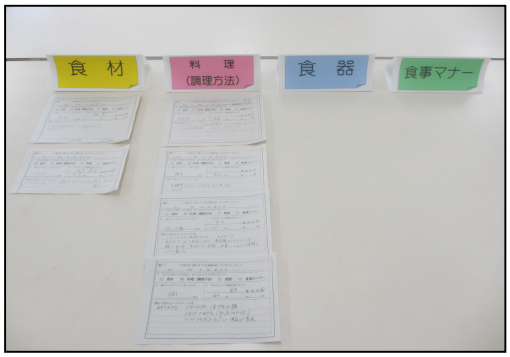
□家族や地域の人々を対象とした調査活動（情報の収集）
□郷土料理の調理計画に必要な情報の分類・整理　　□調理計画
□基礎的な調理技能の活用　　□栄養バランスを考えた調理の工夫
□郷土料理と非常食・災害食の相違【単一の調理器具と熱源で調理，具だくさん(主食・主菜・副菜)の汁もの，ごみの出ない食材など】
□安全・安心な食生活を考える
□生鮮食品の流通（生産者と消費者のかかわり）
□食品添加物の表示と種類（加工食品の選び方）
□食品の保存のしかた（購入・調理・保存，大切な食べものを無駄にしない工夫）

＜教　材＞

・学習シート「地域の食文化インタビューカード」
・地域の食文化インタビューカード卓上表示　「食材（地域）」　「食材（季節）」　「料理（調理方法）行事食」　「料理（調理方法）郷土料理」　「食器」　「食事のマナー」
・学習シート「安全・安心な食材を使って郷土料理を作ってみよう」

＜活動の進め方＞

①　「地域の食文化インタビューカード」を用いて，地域の食文化について調べ，情報を収集する。
②　家族や地域の人々にインタビューした情報をカードに記入し，切り離す。
③　「地域の食文化インタビューカード分類卓上表示」を組み立て，②のカードを食文化の内容に合わせて分類・整理する。
④　分類・整理したカードのうち，食材（地域）と料理（調理方法）行事食にポイントをしぼって，地域の食文化について調べたことをまとめる。地域の食材を生かした調理や地域の伝統的な郷土料理について，特徴や調理方法を具体的にまとめ，発表する。



⑤　地域の食文化について調べたことをもとにして，郷土料理の調理計画を立てる。郷土料理の特徴から，単一の調理器具と熱源での調理，主食・主菜・副菜のバランスが整っている具だくさんの汁もの，できるかぎりごみの出ない食料などの非常食・災害食の調理との相違点を考え，調理方法を工夫する。
⑥　地域の食材や地域の伝統的な郷土料理の調査と調理活動から，安全・安心な食生活を考える。（視点：生鮮食品の流通，食品添加物の表示と種類，食品保存のしかたなど）

【参考文献】

坂本廣子・坂本佳奈著(2011)，『がんばらなくても大丈夫台所防災術』，農文協
清田久美子編(2009)，『郷土料理のおいしいレシピ東日本編』，教育画劇
新潟大学地域連携フードサイエンス・センター編(2008)，『これからの非常食・災害食に求められるもの－災害時に必要な食の確保－』，光琳
(財) ベターホーム協会(2007)，『大切なたべものを無駄にしない本』，ベターホーム出版局
岩手県食文化研究会(2006)，『岩手に残したい食材 30 選』，農文協

【学習シート】（生徒一人ひとりに記録させるシート）

地域（郷土・地元）の食文化（食にまつわる伝統文化）インタビューカード

市立　　中学校　　年　　組　　番　名　前

1　あなたが聞いてきた話は，次のどれに当てはまりますか？

□　食材（　季節・地域　）　　**□　料理（　行事食・郷土料理　）**

□　食器　　**□　食事のマナー**

2　誰にインタビューしましたか？

さん

3　それはどこの地域の話ですか？

都　道　府　県

市　　町　　村

【地域の食文化インタビューメモ】

地域（郷土・地元）の食文化（食にまつわる伝統文化）インタビューカード

市立　　中学校　　年　　組　　番　名　前

1　あなたが聞いてきた話は，次のどれに当てはまりますか？

□　食材（　季節・地域　）　　**□　料理（　行事食・郷土料理　）**

□　食器　　**□　食事のマナー**

2　誰にインタビューしましたか？

さん

3　それはどこの地域の話ですか？

都　道　府　県

市　　町　　村

【地域の食文化インタビューメモ】

【学習シート】（生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

安全・安心な食材を使って郷土料理を作ってみよう

年　　組　　番（　　）班　氏名

郷　土　料　理　名	
材料となる地域の食材	

＜材料と分量＞

材　料	１人分（ｇ）	（　　）人分		備　　考（先生から）
		ｇ	概量（がいりょう）	

＜調理の工夫と作り方・調理計画＞

①

【教材】地域の食文化インタビューカード分類用卓上表示「食材（季節）」

【教材】地域の食文化インタビューカード分類用卓上表示「食材（地域）」

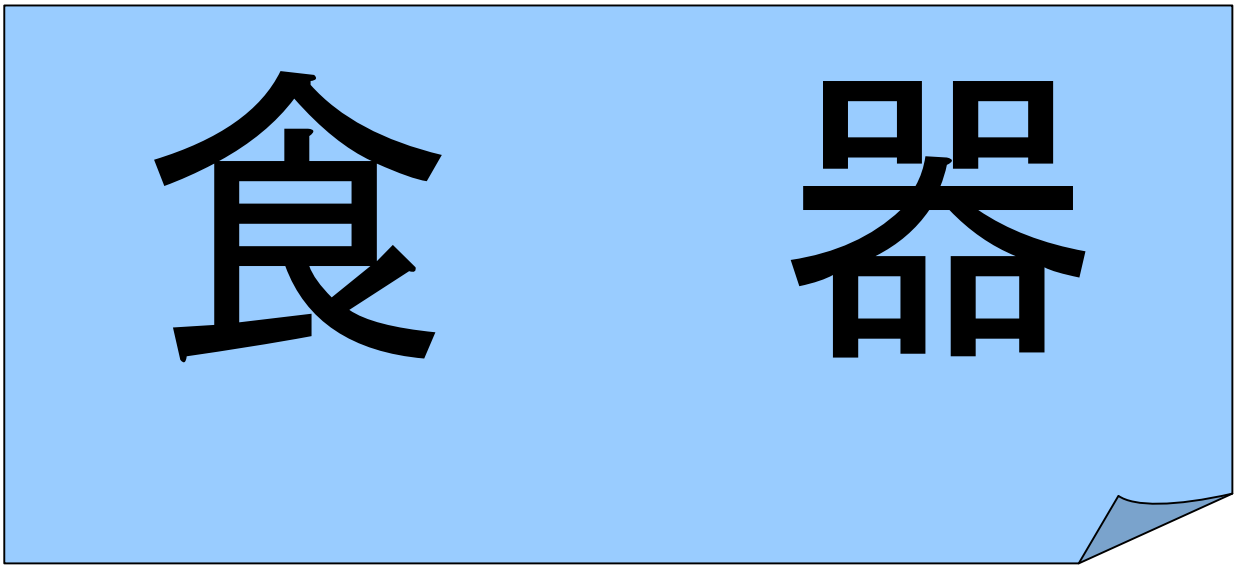
【教材】地域の食文化インタビューカード分類用卓上表示「料理（調理方法）郷土料理」

料理（調理方法）
郷土料理

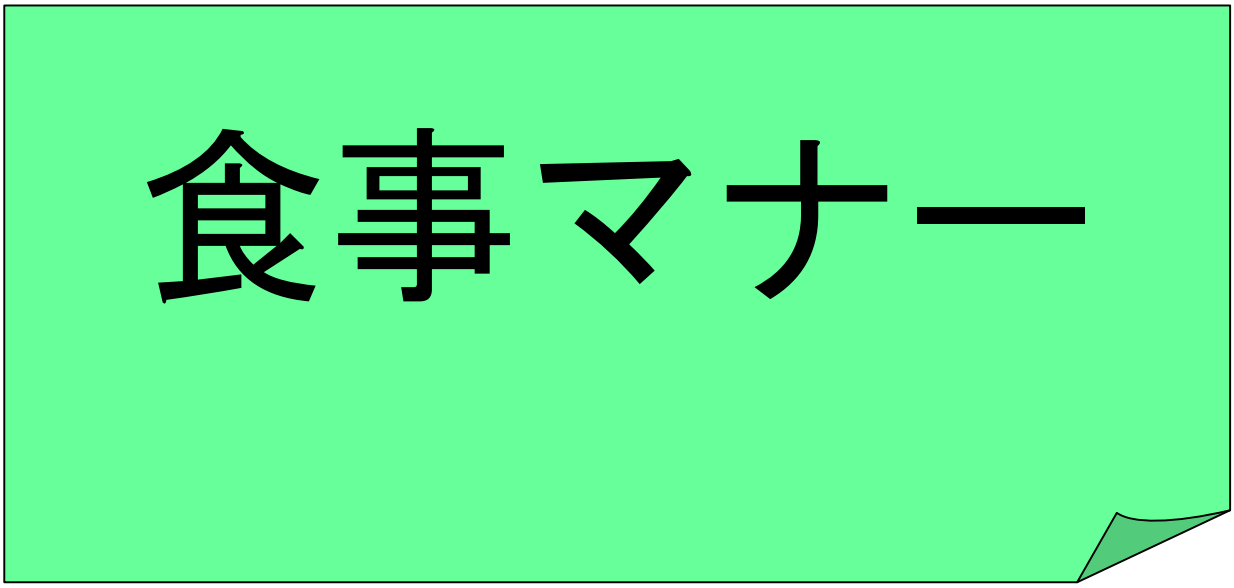
【教材】地域の食文化インタビューカード分類用卓上表示「料理（調理方法）行事食」

料理（調理方法）
行事食

【教材】地域の食文化インタビューカード分類用卓上表示「食器」



【教材】地域の食文化インタビューカード分類用卓上表示「食事マナー」



Ⅱ中学校家庭分野１－(2)題材名：家族にマイ箸袋を作ってあげよう

【活動のねらい】　**小中の裁縫技能・技術を活用してマイ箸袋を製作し，日常と非常時での活用方法を家族と一緒に考える。**

□余り布や木綿衣料の活用　□型紙つくり　□印付け　□布地の裁断
□布地の合わせ方（中表）　□正しいまち針のとめ方
□ミシンの下糸巻き　□ミシンの上糸・下糸のかけ方
□ミシンでの直線縫い（始めと終わりの返しぬい，角の縫い方）
□手ぬい針に糸を通す　□玉結び　□並ぬい　□玉どめ
□スナップボタンつけ（丈夫につける方法）
□環境に配慮した生活の実践

＜材　料（箸１膳分）＞

・工作用紙
・綿 100％の布地（普通地）縦２８cm×横１９～２６cm（箸の長さによって調節する）
・スナップボタン２組
・ミシン糸（手縫い用糸で，並縫いと本返し縫いで作らせてもよい）
・手縫い糸 30 番（スナップボタンつけ用）

＜用　具＞

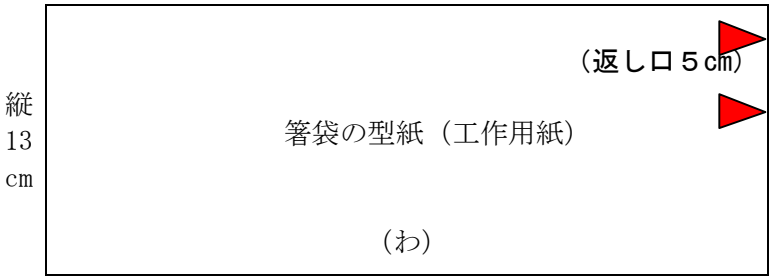
紙用はさみ
ミシン，ボビン，ものさし（竹尺），チャコペン，裁ちばさみ，まち針，縫い針（長針），
糸切りばさみ，（手縫いの場合は，縫い針（短針）

＜箸袋の作り方＞

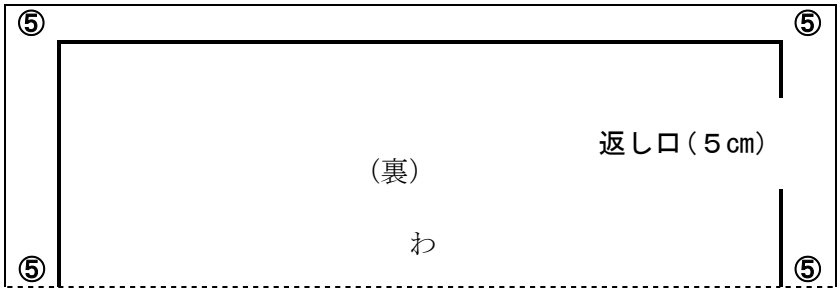
①　箸袋に入れたい箸の長さを測り，布地の横寸法を決める。

箸の長さ　cm	＋	ゆとり　２cm	＋	縫いしろ　２cm	＝	布地の横寸法　cm

②　縦１３cm×横（箸の長さ＋ゆとり２）cm の寸法で型紙を作り，縦方向の端から１cm のところに，５cmの返し口の印を付ける。



横：箸の長さ＋ゆとり２（cm）

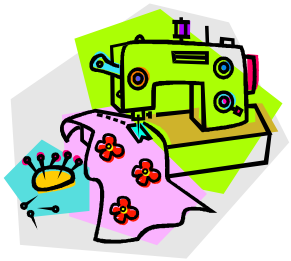


③　布地を中表二つ折りにして型紙を当て，わの部分を除いて縫いしろ１cm を測りチャコペンで印を付け，布地を裁断する。
　型紙を用いて，出来上がり線と返し口の印をチャコペンで付ける。

④　③の出来上がり線のとおりにミシンで縫う。
　　【始めと終わりは返し縫い】
　　（手縫いの場合は，細かい針目の並縫い）
⑤　４つの角をミシンの縫い目を切らないように，切り落とし，返し口から表に返す。【写真１】
⑥　まち針で角を整え，必要な場合はアイロンをかける。
⑦　返し口側を縦 1／3 折り上げ，ミシンで縫い，箸を入れる袋部分を作る。【写真２】
　（手縫いの場合は，本返し縫い）

【写真１】④本縫い，⑤角の切り落とし

【写真２】⑦袋部分を作る

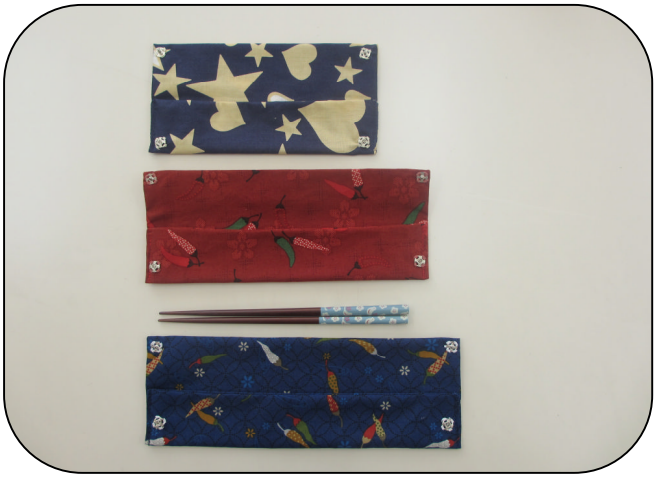


⑧　蓋（ふた）になる部分を被（かぶ）せ，スナップボタン付け位置を確認する。
蓋部分には凸型，袋部分には凹型のスナップボタンを縫いつける。【写真３】【完成】
【教科書でスナップボタンを丈夫につける方法を確認する】

【写真３】⑧スナップボタンつけ

入れたい物の大きさを測り，布地の縦横の寸法を変えると，通帳や保険証などの貴重品ケース，薬入れ，ペンケースや名刺入れも作れます。
　小学校家庭科の裁縫技能と中学校技術・家庭科家庭分野で学習するスナップボタン付けを活用した教材です。

☆マイ箸袋や貴重品ケースなどを家族や地域の方々に作って贈り，日常と非常時での活用方法について，一緒に考えてみよう。



【学習シート】（生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

「布を用いた物の製作，生活を豊かにするための工夫」の事前調査用紙

年　　組　　番（　　）班　氏名

Q．１　小学校家庭科での「生活に役立つ物の製作」実習では，どんな物を製作しましたか？
また，その製作した物はどんな裁縫技能を活用しましたか？

学　年	作　品　名	活用した裁縫技能を〇で囲みましょう
小学校 ５年生	基礎縫い練習布	ボタンつけ 並ぬい　返しぬい　かがりぬい ミシンでの直線ぬい　ミシンでの返しぬい その他（　　）
		ボタンつけ 並ぬい　返しぬい　かがりぬい ミシンでの直線ぬい　ミシンでの返しぬい その他（　　）
小学校 ６年生		ボタンつけ 並ぬい　返しぬい　かがりぬい ミシンでの直線ぬい　ミシンでの返しぬい その他（　　）
		ボタンつけ 並ぬい　返しぬい　かがりぬい ミシンでの直線ぬい　ミシンでの返しぬい その他（　　）

Q．２　次の裁縫技能について「できる」「やったことがあるが，今は自信がない」「全くやったことがない」のいずれかを答えてください。

ア　針に糸を通す （糸通しを使わずに）	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
イ　玉結び	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
ウ　玉どめ	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
エ　手ぬい（並ぬい）	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
オ　手ぬい（返しぬい）	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
カ　手ぬい（かがりぬい）	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
キ　ミシンの上糸かけ	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
ク　ミシンの下糸巻(ﾎﾞﾋﾞﾝ)	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
ケ　ミシンのボビンセット	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
コ　ミシンでの返し縫い	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
サ　ミシンでの直線縫い	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
シ　ミシンでの角の縫い方	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
ス　ボタンつけ	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
セ	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない
ソ	できる　やったことがあるが，今は自信がない　全くやったことがない

☆　製作実習で出来るようになりたいことを書きましょう	＜備考＞

小学校家庭「3　実習の指導」の留意点

小学校学習指導要領解説家庭編（平成 20 年８月）第３の３「実習の指導」より

> 3　実習の指導については，次の事項に配慮するものとする。
> (1)　服装を整え，用具の手入れや保管を適切に行うこと。
> (2)　事故の防止に留意して，熱源や用具，機械などを取り扱うこと。
> (3)　調理に用いる食品については，生の魚や肉は扱わないなど，安全・衛生に留意すること。

ここでは，実習の指導について，特に配慮することを述べている。家庭科は実践的・体験的な活動を通して学習することを特徴としているので，その中心的な学習活動である製作や調理などの実習を効果的に進めるために，事故の防止に留意する必要がある。

服装を整え，用具の手入れや保管を適切にすることが学習の効果を高めることや，熱源，用具，機械などの扱い方や手入れ，収納の仕方などを指導するようにする。また，食品についても安全・衛生に十分留意して扱うことを徹底する。

実習では，児童が自分の活動に集中して周りの環境に気付かなかったり，慣れない用具を扱ったりして，危険を伴うことが予想されるので，指導者はそれらを見通して安全確認をし，家庭科室全体の用具等の配置や熱源，用具，機械などの扱い方を掲示して注意を促すなど学習環境を整え事故の防止に十分留意する必要がある。

(1) 服装を整え，用具の手入れや保管を適切に扱うこと。

服装については，活動がしやすく安全性に配慮したものを準備して着用するように指導する。例えば，調理実習での服装は，清潔で，付いた汚れが分かりやすいエプロン等を身に付けさせたり，袖口をまくったり腕カバーを付けたりなどして作業に適したものを用いることや，髪の毛などが食品や調理用具などに触れないように三角巾を着けるなどの工夫をさせる。

なお，製作や調理実習の前には手指を十分洗うなど衛生面にも留意するように指導する。

用具の手入れについては次のことを指導する。調理実習等においては，こんろは回りの汚れを拭き取る。調理用具は使用したらなるべく早く丁寧に洗い，よく水気を取るようにする。油の汚れは紙や古い布などで拭き取ってから洗うようにする。包丁は，安全に気を付けてよく洗い，水気を拭き取る。まな板は，使用後，流し水をかけながら洗い，十分乾燥する。ふきんについては，洗剤液などで洗い，直射日光に当てて乾燥するなど，衛生的な扱いに留意する。

用具の保管については，安全や衛生に留意して収納させる。例えば，調理実習後，茶碗などを重ねすぎないようにしたり，清潔な場所に収納したりするようにする。また，製作実習で使用する針類，はさみ類，アイロン，ミシンなどの用具の安全な保管方法の指導についても徹底する。例えば，アイロンは冷めてから収納場所に保管する，包丁やはさみは本数を確認し，保管箱に入れたりカバーを付けたりするなど，保管には十分留意し，常に安全管理に努めるよう指導する。

- □ **調理中の着衣着火を防ぐため，冬期間などの調理実習当日に，アクリルのセーターなどの着用をしてこないように保護者に文書で事前に伝えておくようにするとよい。**
- □ **実習中は児童と動線がからむため，教師の服装は，衛生的かつ目立つものがよい。**
- □ **家庭から調理実習用のふきんを持参させる場合があるが，家庭ごとにふきんの洗浄・乾燥状態が異なることから，食品衛生上不安である。最も衛生的な方法として，調理室に食器用の白ふきん，台ふきん（食器用と区別するために色つきのもの），床拭き用の雑巾が各調理台必要枚を用意すること。**
- □ **まな板は，木製ではなくプラスチック製のものが，衛生管理が容易である。まな板に包丁の切り傷がたくさんあると，その部分に雑菌が繁殖するので，適宜まな板を更新すること。スポンジは食器用洗剤で洗浄・すすぎ後，煮沸消毒（塩素漂白）をし，天日干しにする。**

⑵ 事故の防止に留意して，熱源や用具，機械などを取り扱うこと。

熱源や用具，機械などについては，取扱いを誤ると危険を伴うものがあるので，常に安全管理と事故の防止に努めることが大切であることを理解させ，それらを安全に扱うことができるようにし，基本的な操作を身に付けるように指導する。さらに，使用場所や用具の配置の仕方で仕事の能率や事故の防止にも役立つことに気付かせるようにする。事故の防止のためには落ち着いた雰囲気の中で学習が進められるように工夫することも重要である。なお，洗剤類の管理についても，誤用のないように十分留意する。

調理実習では，調理台の整理・整頓や用具の配置などを工夫させる。また，熱源や回りにふきんやノート類など燃えやすいものを置かないことや，熱源の適切な点火・消火の確認や調理中の換気について指導する。こんろや調理器具の余熱にも注意させる。

製作実習では，針の本数の確認や折れた針の始末などを徹底させる。また，アイロンは，使用場所や置き方に留意し，火傷などを引き起こさないように指導する。

機械については，例えば，ミシンなど重量のある物の配置，コードの取り扱い方などについて十分配慮させる。

【用具を扱うときの注意】
① よそ見をしたり，ふざけたりしない。
② 包丁の受け渡しは，調理台の上に置いた状態で行う。
③ 包丁の置き方に注意する。（まな板からはみ出させない）
④ ミシンやアイロン台，まな板は複数の児童に同時に使用させない。

【ガスこんろの安全】
① 点火したときは，火のついたことを確かめる。
② まわりに燃えやすいものを置かない。
③ 使用するときには，実習室の換気に注意する。
④ 使い終わったら，器具せんとガスせんを閉める。

⑶ 調理に用いる食品については，生の魚や肉は扱わないなど，安全・衛生に留意すること。

米飯とみそ汁以外は題材指定していないため，地域や学校，児童の実態に応じた多様な食品を用いることになる。調理に用いる材料は安全や衛生を考えて選択するようにする。児童が家庭から持参する場合は，実習の前に指導者が腐敗していないか匂いや色などを確かめたり，実習時間までの保管に十分留意したりする。特に，生の魚や肉については調理の基礎的事項を学習しておらず，扱いや衛生面での管理が難しいので用いないようにする。卵を用いる場合には，新鮮であることを確認し，加熱調理をするように指導する。

【食中毒を予防３原則】夏は細菌性食中毒・冬はウィルス性食中毒が多い。
① 洗浄と密封で「菌を付けない」念入りな手洗い。肉や魚の汁で他の食品を汚染させない。
② 冷却で「菌を増やさない」冷蔵庫は 10℃以下，冷凍庫は－15℃以下に。
③ 熱で「菌をやっつける」加熱は食品全体を 75℃で１分以上。温め直しも 75℃以上。

【調理前の手洗い方法－１分間手洗いの励行－】
① 爪を短く切る。（指輪，時計，手首のアクセサリー，ピアスをはずす）
② 流水で手指をぬらす
③ 薬用石けん（薬用ハンドソープ）をつけ，十分に泡立てる。ひじから指先までしっかりと，もみ洗いする。爪の間は，反対の手のひらに指先をこすりつけるようにして洗う。親指が洗えていないことが多いので，反対の４本指で覆いしっかりと洗う。
④ 流水で石けん分を十分除去するように流し，清潔なタオルやペーパータオルで水気をとる。【※手指に傷（化膿巣）や胃腸炎症状がある場合は集団調理不可】

中学校技術・家庭「3　実習の指導」の留意点

中学校学習指導要領解説技術・家庭編（平成 20 年９月）第３の３「実習の指導」より

> 3　実習の指導に当たっては，施設・設備の安全管理に配慮し，学習環境を整備するとともに，火気，用具，材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し，安全と衛生に十分留意するものとする。

技術・家庭科における実習，観察・実験，見学，調査・研究などの指導について，特に配慮すべきことについて示している。

技術・家庭科では，機器類，刃物類，引火性液体，電気，ガス，火気などを取り扱って実習するため，安全の保持に十分留意して学習指導を行う必要がある。特に機器類を取り扱う際には，取扱説明書などに基づき適切な使用方法を遵守させるなど，事故防止に万全の注意を払うとともに，以下の点に留意する必要がある。

(1) 安全管理について

①　実習室等の環境の整備と管理

実習室等の環境の整備と管理については，安全管理だけの問題ではなく，学習環境の整った実習室そのものが，生徒の内発的な学習意欲を高める効果があることに留意する。そのため，実習室内は生徒の学習意欲を喚起するように題材に関する資料や模型等を掲示するなど工夫し，授業実践を支える環境としての実習室の整備に努めるようにする。

実習室等の施設の管理では，実習室の採光，通風，換気などに留意するとともに，生徒の作業動線を考慮して設備の整備をしたり，加工機器等の周囲には安全域を設けたりして事故防止に努める。また，設備の管理では，機器類の定期的な点検及び学習前の点検を行い，常に最良の状況を保持できるように留意する。例えば，ガス管が設備された実習室では，露出しているガス管の点検や液化石油ガスの管理場所の点検を定期的に行うなど，各実習室の安全管理に必要とされる事項を具体化し，それに基づき管理するようにする。

②　材料や用具の管理

材料や用具の管理は，学習効果を高めるとともに，作業の能率，衛生管理，事故防止にも関係しているので，実習などで使用する材料の保管，用具の手入れなどを適切に行うようにする。調理実習では，火気，包丁，食品などについての安全と衛生に留意し，食品の購入や管理を適切に行うよう十分に留意する。

これらについては，生徒にも指導を行い，整備や手入れを適切に行うことが技術の習得を補完するとともに，実生活でも役立つことに気付くよう配慮する。

なお，廃棄物や残菜などについては，その有効活用に努めるとともに，廃棄する場合は，自治体の分別方法等に対応して処理するようにする。

(2) 安全指導について

①　実習室の使用等

各学校の実態に即して実習室の使用規定や機器類の使用などに関する安全規則を定め，これらを指導計画の中に位置付けて指導の徹底を図るようにする。その際，事故が起きる状態とその理由などを予測させたり，その防止対策を考えさせるなど具体的に指導するようにする。また，事故・災害が発生した場合の応急処置と連絡の徹底など，緊急時の対応についても指導する。

②　学習時の服装

服装については，活動しやすいものを身に付けさせ，安全と衛生に配慮するようにする。

機器類の操作場面では，皮膚を露出しない作業着などを着用させたり，作業内容に応じて保護眼鏡，マスク，手袋などの適切な保護具を着けさせたりする。食品を扱う場面では，エプロンや三角巾を着用させて，清潔を保つようにするとともに，手洗いを励行させるなどの衛生面に配慮するように指導する。

③　校外での学習

見学，調査，実習などを校外で実施する場合には，目的地に到着するまでの移動経路などを事前に調査し，交通手段等の安全の確認や生徒自身の安全の確保に留意する。また，学習の対象が幼児や高齢者など人である場合には，相手に対する配慮や安全の確保などに十分気を配るように指導する。

校外での活動を計画する際には，校内での活動を同様に，事故を予見する力が求められる。また，事故の防止策及び事故発生時の対応策などにいて綿密に計画し，教師の適切な対応とともに生徒の対応についても指導の徹底を図るようにする。

高等学校共通教科「家庭」「実験・実習の指導」の留意点

高等学校学習指導要領解説家庭編（平成 22 年５月）第３の３「実験・実習の指導」より

> ３　実験・実習を行うに当たっては，関連する法規等に従い，施設・設備の安全管理に配慮し，学習環境を整備するとともに，火気，用具，材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し，安全と衛生に十分留意するものとする。

実験・実習を行うに当たっては，被服実習室，食物実習室，家庭総合実習室などにおける施設・設備の定期点検及び整備を行い，安全管理や衛生管理を徹底するとともに，生徒の学習意欲を喚起するよう，資料，模型，視聴覚機器，情報通信機器などを整備し，学習環境を整えることが必要である。

また，電気，ガスなどの火気，薬品，針，刃物などの安全に配慮した扱いや，特に食材，調理器具などの衛生的な管理と取扱いについての指導を徹底し，事故や食中毒などの防止に努める。

高等学校専門教科「家庭」「実験・実習の実施に当たっての配慮事項」

高等学校学習指導要領解説家庭編（平成 22 年５月）第３の３「実験・実習の指導」より

> ３　実験・実習を行うに当たっては，関連する法規等に従い，施設・設備や薬品などの安全管理に配慮し，学習環境を整備するとともに，事故防止の指導を徹底し，安全と衛生に十分留意するものとする。

実験・実習を行うに当たっては，関連する法規などに従い，被服実習室，食物実習室，保育実習室などの施設・設備の定期点検と整備を実施し，安全管理や衛生管理を徹底することが必要である。また，情報通信機器，視聴覚機器，掲示資料，模型などを適切に整備し，学習環境を整えることが必要である。特に，調理実習における電気，ガスなどの火気の扱い，実習室の換気，包丁などの刃物の安全な取扱いと管理，食中毒を防止するための食材の補完と取扱い，調理器具の衛生的な管理，被服製作や服飾手芸における針，縫製機器，薬品などの安全な取扱いと管理についての指導を徹底し，事故や食中毒の防止を図り，安全と衛生に十分留意して実験・実習ができるようにする。

また，校外に出て調査・研究・実習などを行う際においても，事故の防止や安全管理などに配慮し，指導計画を綿密に作成し，生徒が高校生としての自覚と責任をもって行動し，所期の目的が効果的に達成されるよう生徒指導にも十分留意する。

専門教科「家庭」各科目指導要領に示されている関係法規について

【学習内容との関連が示されている法規など】

消費者基本法，児童福祉法，老人福祉法，介護保険法，建築基準法，消防法，住生活基本法，高齢者の居住に関する安全確保に関する法律，高齢者，障害者等の移動の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法），食育基本法（及び食育推進基本計画），食品安全基本法，食品衛生法（同施行令，同施行規則），農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律（ＪＡＳ法），学校給食法，健康増進法，乳及び乳製品の成分規格等に関する省令，食品及び添加物等の規格基準，器具及び容器包装の規格基準，公衆衛生関係法規（保健衛生関係，予防衛生関係，環境衛生関係，医事関係，薬事関係など），幼稚園教育要領，保育所保育指針

【資格の根拠となる法規など】

調理師法，栄養士法，建築士法，社会福祉士及び介護福祉士法，
精神保健福祉法，児童福祉法